

# 堀川に架かる橋の親柱にみる石材の変遷

Building stones of bridges over the Horikawa canal, Nagoya City

西 本 昌 司\*

NISHIMOTO Shoji

## 1. はじめに

歴史的建造物に使われている石材を調べることは、石材変遷史を知るためだけでなく、文化財保護・修復や石材産業の発達史を理解する上でも重要である<sup>1) 2)</sup>。それに加えて、最近の街歩き人気の高まりなどから、石材にも関心が向けられるようになってきており、歴史的建造物に使われている石材を地質学的な観点より記載しておくことは、観光資源化等を念頭においても意義深い。

名古屋市において堀川は、名古屋城とともに、歴史・文化を伝える観光資源と考えられている<sup>3)</sup>。堀

川の橋には、大正期から残る橋（写真1）から平成期に架け替えられた橋まであり、石材で造られた立派な親柱及び高欄が設置されていることが多く、石材変遷史がわかる文化財としてだけでなく、地質学に関心を持ってもらう教材にもなると思われる。そこで、堀川にかかっている橋に使われている石材について、文化財価値向上や教材利用などで活用できるよう、石材種を同定したので報告する。

## 2. 調査方法及び結果

名古屋市中心部にある堀川の幅下橋から住吉橋ま



写真1：1917（大正6）年竣工の中橋



写真2：1987（昭和62）年に改修した納屋橋



図1：調査した橋の位置

\*愛知大学（前名古屋市科学館学芸課）

表1：堀川の橋と利用石材（番号は図1参照）

| 橋名および現在の橋の竣工年        | 利用されている石材                    | 地質体          |
|----------------------|------------------------------|--------------|
| A 幅下橋 (1985)         | インペリアルレッド (スウェーデン産花崗岩、表札のみ)  |              |
| B 小塩橋 (1997)         | 居昌 (韓国産花崗岩)                  |              |
| C 景雲橋 (1969)         | 万成石 (岡山県産花崗岩)                | 山陽帯花崗岩       |
| D 五条橋 (1985修景)       | 藤岡御影 (豊田市産花崗岩)               | 伊奈川花崗岩       |
| E 中橋 (1917)          | 藤岡御影 (豊田市産花崗岩) ?             | 伊奈川花崗岩       |
| F 桜橋 (1937)          | 万成石 (岡山県産花崗岩)                | 山陽帯花崗岩       |
| G 伝馬橋 (1988修景)       | 足助御影 (豊田市産花崗岩)               | 伊奈川花崗岩       |
| H 錦橋 (1987改修)        | 蛭川御影 (岐阜県中津川市産花崗岩)           | 苗木花崗岩        |
| I 納屋橋 (1981)         | 岡崎石 (岡崎市産花崗岩)                | 武節花崗岩        |
| J 天王崎橋 (1958)        | 万成石 (岡山県産花崗岩)・岡崎石 (岡崎市産花崗岩)  | 山陽帯花崗岩／武節花崗岩 |
| K 新洲崎橋 (1987)        | 岡崎石 (岡崎市産花崗岩)・藤岡御影 (豊田市産花崗岩) | 伊奈川花崗岩／武節花崗岩 |
| L 岩井橋 (1923)         | 北木石 (岡山県北木島産花崗岩)             | 山陽帯花崗岩       |
| M 日置橋 (1938)         | 藤岡御影 (豊田市産花崗岩) ?             | 伊奈川花崗岩       |
| N 松重橋 (1932)         | 岡崎石 (岡崎市産花崗岩)                | 武節花崗岩        |
| O 山王橋 (1958, 1981改築) | 議院石 (広島県産花崗岩)                | 山陽帯花崗岩       |
| P 古渡橋 (1988改築)       | 岡崎石 (岡崎市産花崗岩)                | 武節花崗岩        |
| Q 尾頭橋 (1994改築)       | ルナパール (イタリア産花崗岩)             |              |
| R 住吉橋 (1984年改修)      | 岡崎石 (岡崎市産花崗岩)                | 武節花崗岩        |

での石材が使われている18の橋について、親柱あるいは高欄に使われている石材を目視により同定するとともに、竣工あるいは修復年を確認した。

調査結果は表1にまとめた。幅下橋の親柱は擬石であり、表札のみに赤御影（インペリアルレッド）が使われていた。それ以外の橋には、岡崎石、藤岡御影、足助御影、蛭川御影、万成石、北木石、議院石、居昌、ルナパールが認められた。ただし、中橋と日置橋の石材については藤岡御影と類似しているものの汚れもあって不確実性が高いと思われる。

### 3. 考察

橋の両端に設けられる親柱は、河川名や橋の名前や竣工年月が記されるだけでなく、彫刻が施されるなどして装飾性を高めることで橋を演出する役割がある。堀川の橋でも、かつては石材で立派な親柱が設けられていたことがわかる。年代順に見ていくと、昭和期までは国産御影石が利用され、幅下橋の表札を除けば、平成以降に竣工した尾頭橋と小塩橋に海外産が使われている。これは、御影石が海外で加工されるようになった時期<sup>2) 5)</sup>と一致しており、バブル経済の崩壊とともに国産御影石の利用が減少したことを示している。

国産御影石の中でも多いのは岡崎石、藤岡御影、足助御影で、採石地が岡崎市及び豊田市という近くにあることと、名古屋市の社寺や公園などでよく見かける石材であることから、名古屋周辺で広く普及していたと考えられる。大正期に造られた中橋と日

置橋の御影石については、藤岡御影と判定したものの、戦後の建築物に使われているものとは見かけがやや異なり、表面処理の違いだけでなく、戦後の採石地とは産地が異なるためと考えられる。

岡崎・豊田地域で採石された御影石が普及している中で、万成石や北木石など瀬戸内産の御影石も親柱に使われていることは興味深い。桜橋の場合は道路名も桜通であることから、あえて桜色の御影石として著名な万成石が選ばれたと考えられる。それ以外の橋で瀬戸内産御影石が使われているのは、景雲橋、天王崎橋、岩井橋、山王橋であり、交通量の多い橋ばかりある。岩井橋の親柱は昔ながらの大きなもので、大正期に竣工した橋であることを考えると、意匠上の何らかのこだわりがあったと思われる。

一方、名古屋の玄関とも言える広小路通の納屋橋には岡崎市産の岡崎石が、錦通の錦橋には岐阜県中津川市産の蛭川御影が使われており、どちらも1980年代に改修された際に近隣で採石されている御影石を用いている。納屋橋については、昭和の改築で「親柱は新しい石材で形を再現し、照明灯は往時のイメージを写真を元に復元した」という記録があり<sup>4)</sup>、もともとあった親柱と同じ石材が選ばれた可能性は高い。錦橋の親柱については、納屋橋のような明確な記録はないものの、蛭川御影の採掘が本格化したのは戦後である<sup>6)</sup>ことから、1987年の改修の際に新たに作られたものと考えられる。

このように、堀川に架かる橋の親柱の石材には、



写真1. 堀川の橋の親柱に使われている石材（その1）

A：幅下橋（擬石、表札のみインペリアルレッド）、B：小塩橋（居昌）、C景雲橋（万成石）、D：五条橋（藤岡御影）、E：中橋（足助御影？）、F：桜橋（万成石）、G：伝馬橋（藤岡御影）、H：錦橋（蛭川御影）、I：納屋橋（岡崎石）（記号は図1と共通。カッコ内は石材名）

流通していた石材の変遷が見出される。橋の親柱は竣工当時のまま残されている場合が多く、歴史研究と組み合わせることにより、文化財価値の向上や普及活動への活用が期待される。

#### 4. 結論

名古屋市中心部にある堀川に架かる石材が使われている18の橋について、親柱あるいは高欄に使われている石材を同定した。その結果、岡崎・豊田地域

で採石された御影石が普及していた中、万成石や北木石などの瀬戸内産の御影石も持ち込まれていたことや、平成になって海外産御影石が使われるようになっていたことがわかった。堀川の橋の石材には、名古屋における石材の変遷が記録されており、学術的にも価値がある歴史的建造物だと言える。

#### 参考文献

- 1) 西本昌司（2021）近代建築に見る都市圏における外

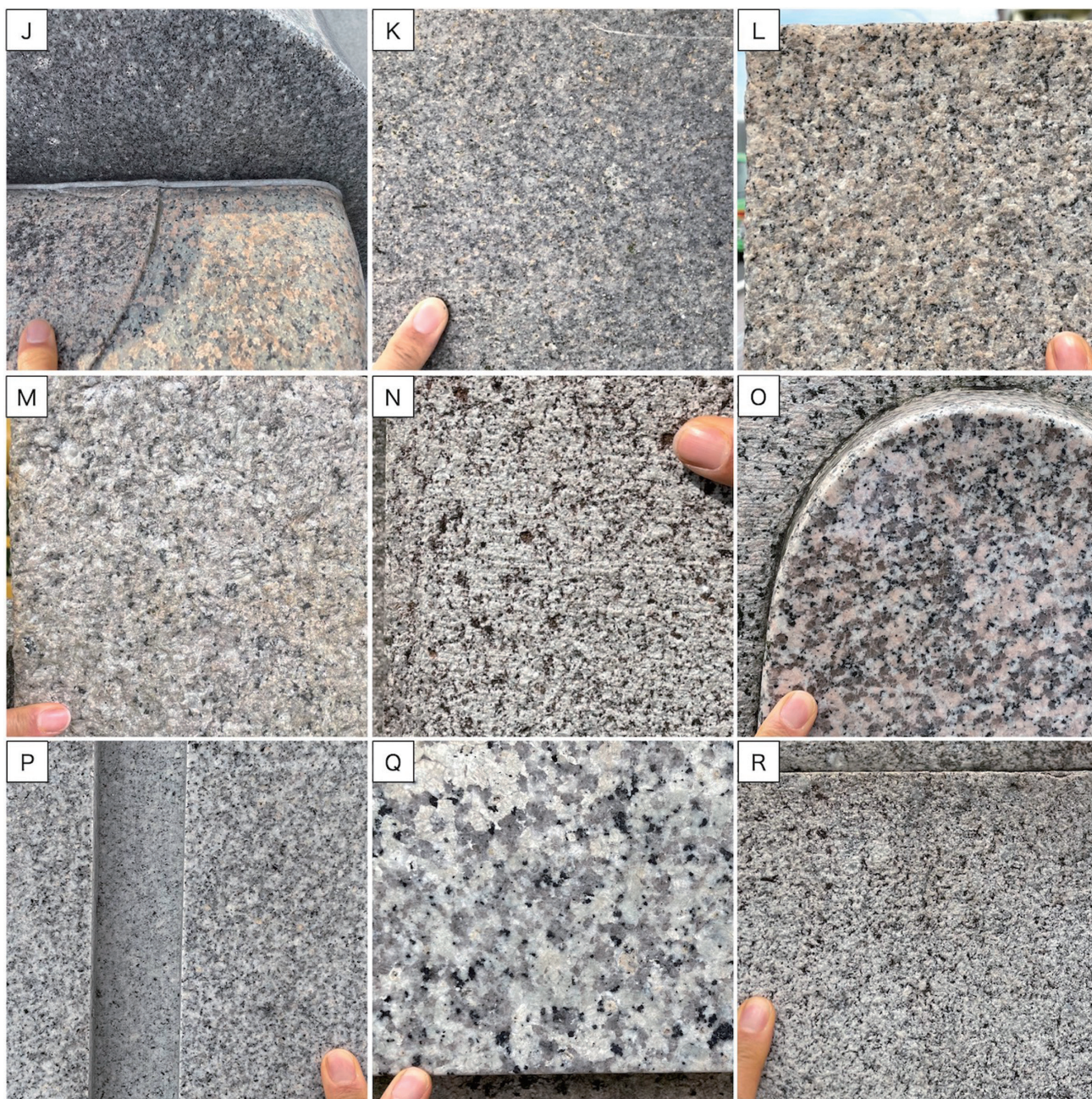


写真2. 堀川の橋の親柱に使われている石材（その2）

J：天王崎橋（岡崎石および万成石）、K：新洲崎橋（岡崎石）、L：岩井橋（北木石）、M：日置橋（藤岡御影？）、N：松重橋（岡崎石）、O：山王橋（議院石）、P：古渡橋（岡崎石）、Q：尾頭橋（ルナパール）、R：住吉橋（岡崎石）（記号は図1と共通。カッコ内は石材名）

装用石材の変遷とその要因. 地質と文化, Vol.4.

- 2) 乾 睦子 (2021) 国内の花崗岩石材産業のあらましと現状―「稲田石」を例として―. 国士舘大学理工学部紀要, Vol.5, pp.74 - 80.
- 3) 名古屋市 (2014) 堀川まちづくり構想. 名古屋市緑政土木局河川部河川計画課. 101p.
- 4) 浅井章治・村瀬勝美・社本英・水野孝 (1991) 納屋

橋の歴史と橋梁景観. 土木史研究 Vol.11, 319-325.

- 5) 乾睦子・大畑裕美子 (2014) 公的統計値と業界紙から見る二十世紀後半以降の日本の石材産業. 国士舘大学理工学部紀要 vol. 7, pp.173-180.
- 6) 中津川・恵那広域行政事務組合 編 (1988) 恵那地域誌：続恵那郡史. 1574p.